

学校関係者評価報告書
(令和3年度)

令和4年6月

学校法人 都築科学学園
関東柔道整復専門学校

令和3年度 学校関係者評価報告書

学校法人 都築科学学園
関東柔道整復専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人 都築科学学園 関東柔道整復専門学校 学校関係者評価委員会は「令和3年度自己評価」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

氏名	所属	選出区分
木村 浩吉	元 横浜 F・マリノス 監督	業界関係者
椎葉 一樹	第一学院高等学校 立川キャンパス キャンパス長	高等学校関係者
栗田 弘和	株式会社メディカルスポーツエージェンツ 代表取締役	企業関係者
山川 睦	やまかわ整骨院 院長	企業関係者
大井 淳一	2年生在校生 保護者	保護者
川端 翼	アシツク整体院 院長	卒業生

※委員長は木村浩吉氏が選出された。

2. 本校出席者

氏名	役職
都築 稔	学校長
伊藤 尚司	校長代理・事務長
加藤 稔啓	学科長
小田 敏明	学科主任
諸井 祐典	事務次長
兵藤 宜昭	広報課長
平野 卓	法人本部経理課長
及川 光洋	法人本部職員
中野 史之	事務職員・書記係

3. 日時・場所

令和4年6月5日(日) 午前10時～11時35分
関東柔道整復専門学校 5F基礎医学実習室

4. 会議の概要

- ・学校長挨拶
- ・委員紹介、委嘱状交付、委員長選出
- ・令和3年度自己評価について
- ・令和4年度運営計画について
- ・質疑応答、意見交換

5. 令和3年度自己評価における学校関係者評価

評価項目	平均値	学校関係者評価
1.教育理念・目標	3.3	<p>○学校の理念・目的・育成人材像等は明確に規定されていると認識している。</p> <p>○昨年度、『学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか』の自己評価が『やや不適切』から『ほぼ適切』となり、ホームページやホームルームリポート(学校通信)等で、学生・保護者へ随時周知するなどの工夫を凝らし改善努力がみられた。更にSNSを活用し、同様の情報発信を検討してみてはどうか。</p> <p>○社会・業界・時代のニーズの変化が著しい中、将来構想についての取組みとして、『国家資格+スポーツ』で日本のスポーツ・医療業界で活躍する『スポーツトレーナーのスキルを持った柔道整復師』の人材育成をコンセプトに、時代のニーズに対応した取組みを行っている」と評価する。</p>
2.学校運営	3.2	<p>○目的等に沿った運営方針が策定され、またそれに沿った事業計画は適切に策定されており、ホームページにおいて情報公開が行われている。また、教育活動等に関する情報公開についても同じく適切に公開されている。</p> <p>○昨年度、『運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか』の自己評価が、『やや不適切』から『ほぼ適切』となり、教職員全員が意思疎通を図る為にミーティング等の機会を増やしたことで情報共有が行われ、改善されたことは評価できる。</p> <p>○『情報システム化による業務の効率化が図れているか』に関しては、昨年度同様『やや不適切』の自己評価となっている為、情報システム化による校務業務の効率化と迅速化を進めていただきたい。</p>

評価項目	平均値	学校関係者評価
3.教育活動	3.0	<p>○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等は策定されており、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされていると認識している。また、カリキュラムは体系的に編成されており、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されていると思われる。</p> <p>○成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は学生便覧に明記され、ホームページでも公開されており明確である。</p> <p>○各業界におけるスペシャリストの講師陣を迎え、関連業界との連携を行っていることが見受けられる。人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要因を備えた教員を確保し、学生指導力の向上及び学生満足度の向上に繋がっていると評価する。</p> <p>○『職業教育に対する部外関係者からの評価を取り入れているか』の自己評価が昨年度に続き『やや不適切』となっている為、第三者評価等の実施を検討し、学校内でのフィードバックを徹底することで、PDCAの流れが明確になるとと思われる。</p> <p>○『職員の能力開発のための研修等が行われているか』も同様、実施方法を見直し、できるところから行っていくことも検討いただきたい。</p>
4.学修成果	3.0	<p>○就職率・資格取得率の向上は、学生支援体制が充実している証であり、学校の強みとなる。また、新入生の募集にも大きく係わってくるので、継続を期待したい。</p> <p>○『退学者の低減が図られているか』については、その原因を究明し、対策を講じるとともにクラス担任はもとより、学校全体で学生の状況把握を行い、退学者『0』を目指したサポートを行っていただきたい。</p> <p>○『卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか』及び『卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動に活用されているか』の自己評価が昨年度同様『やや不適切』となっている為、卒業生の現状調査を行い、校友会活動の活性化を図り在校生との繋がりを作ることで、資格の有効性や将来のキャリアに希望を与え、資格取得へのモチベーションを高めていけるよう連携強化に取り組んでいただきたい。</p> <p>○校友会については卒業生自身も関わるきっかけを作らないといけないと思うので、情報伝達ができる仕組み作りを期待する。</p>

評価項目	平均値	学校関係者評価
5.学生支援	3.3	<p>○希望就職率100%を達成していることから、就職に関する各種支援体制は整備されていると感じる。</p> <p>○学生相談に関する体制も、クラス担任による対面形式・オンライン形式を併用した複数回による個別面談を通じ、学生の修学環境等の状況を把握するなど、引き続き支援・ケア等きめ細かいサポートを継続していただきたい。</p> <p>○経済的な支援体制として学校独自の『特別奨学生制度』が設けられており、授業料の一部免除という特典は、在学時に勉学に励む目標となっていたことから今後も継続した支援をお願いしたい。</p> <p>○学生の健康管理を担う体制として、定期健康診断の実施及び『新型コロナウイルス感染症防止の為の学校生活対応マニュアル』の作成など、健康面についてのサポートは引き続き行っていただきたい。また、今年度よりスクールカウンセラーを導入したとの事なので、学生相談窓口を拡げたことは有効な対策だと思われる。スクールカウンセラーの役割は大きいと考えられるため、情報共有を行い学生支援に役立てていただきたい。</p> <p>○『卒業生への支援体制はあるか』の自己評価が前年度に続き『やや不適切』と評価された件については、卒業生に対し国家試験再チャレンジ制度やホームページで求人情報が閲覧できる環境整備は整ってはいるものの、各種講習会などの情報提供については体制が整っておらず、校友会との連携強化により各種講習会などの実施支援体制の構築が必要と感じる。また、支援と並行し学生募集への協力、地域等へのボランティア活動などあらゆる面で相互のメリットとなるよう総合的なサポート体制を整えることが必要と思われる。</p>
6.教育環境	3.2	<p>○定員に応じた施設・設備・教材が概ね整っていると思われるが、経年劣化による施設のメンテナンス及び設備の定期的な更新は随時対応を検討していただきたい。ただし、予算の関係もあると思われるので、今あるものを磨いていくという発想も大事だと考えられる。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止の環境整備は引き続き行っていただきたい。</p>

評価項目	平均値	学校関係者評価
7.学生の 受入募集	3.3	<p>○長引くコロナ禍において、依然としてオープンキャンパスや高校訪問等、学生募集活動の制限がある中、近隣の進学実績のある高等学校に対し、定期的に訪問を行い在校生・卒業生の近況報告を行うことで信頼関係構築に努めている。</p> <p>○オープンキャンパスなどの募集イベントでは、来校参加形式・オンライン参加形式を併用し、参加者に合わせたイベントを実施するなど参加者を増やす努力がみられた。</p> <p>○教育成果は学校案内やホームページ、SNSなどを通じて幅広く伝えている様子が見え始める。入学者数は年々回復傾向にはあるが定員充足には至っていない。学校知名度向上により、学生募集活動を行い入学定員確保に期待したい。</p> <p>○SNSによる情報発信を積極的に活用しており、学生が学校で楽しく学んでいる様子が伝わり非常に好感が持てる。引き続きSNSをうまく活用し、学生募集に繋げていただきたい。</p> <p>○卒業生(校友会)との連携ができておらず、学生募集活動に活かされていないと感じる。卒業生からの紹介が増えるよう、連携強化に向け取り組んでいただきたい。</p>
8.財務	3.7	<p>○私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しており、財務情報についてはホームページで公開されていることが確認できる。</p> <p>○負債はなく経理努力の成果がみられる。</p> <p>○入学者の減少により減収となっている為、入学者を増やし財務基盤の安定化を図り、健全な学校運営を目指す必要があると思われる。教職員全体で改善に向け取り組んでいただきたい。</p>
9.法令等の 遵守	3.6	<p>○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がされており、個人情報についても、適切に管理がされている。</p> <p>○自己評価及び学校関係者評価を実施してホームページで公開しているが、問題点が改善されていない事項が見受けられる。教職員全体で問題点の把握、改善策の検討をしっかりと行うことが必要だと思われる。</p>

評価項目	平均値	学校関係者評価
10.社会 貢献・ 地域貢献	2.8	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止の中、各種イベントの自粛が続き、社会貢献・地域貢献に係る活動は困難であったと思われる。</p> <p>○事態収束後、ボランティア活動等を積極的に実施できるようホームページやSNSを通じPR活動の準備を進めていただきたい。</p> <p>○卒業生と連携を図り、地域イベントや柔道整復師業界の活動に、学生が参画できる体制作りや支援を行っていただきたい。</p>

6. 令和4年度における運営計画

【学校の方向性】

『国家資格+スポーツ』で、日本のスポーツ・医療業界で活躍する人材、『スポーツトレーナーのスキルを持った柔道整復師』をコンセプトに養成する。

【運営方針】

- ① 『国家資格+スポーツ』で学生の学ぶ領域の拡大
 - ・スポーツトレーナー養成コースのカリキュラムを選択で導入
- ② 都築学園のグループ連携で強みを活かす
 - ・日本薬科大学への編入学制度のシステム確立
 - ・学ぶ分野の拡大・変更・Wスクール・転校転科約30校
 - ・就職先の拡大と業界からの支援
- ③ コロナ禍の気付きで工夫ある教育システムの確立
 - ・オンライン授業の創意工夫
 - ・コミュニケーションの重要性(年6回の定期面談)
 - ・カウンセリング機能の連携

7. 総評

上記10項目に対し、委員による平均評価は3.2(4段階評価)であったことから、関東柔道整復専門学校教育活動、学校運営はいくつか課題はあるものの、概ね適切に維持されていると認識する。

委員からは長引くコロナ禍において、国家試験合格率向上に対する取組と、就職率100%達成に対し努力の成果が評価された。アフターコロナを見据えて、時代に即した実践的な教育環境の整備、教育の質の向上、そして卒業生・保護者・地域コミュニティとの連携強化に努め、一連の活動を通じた学校知名度向上により、学生募集活動へ一層の努力を望む意見が提出された。

自己評価結果及び学校関係者評価結果の改善意見を踏まえて、更なる学校運営の充実を図る。

以上